# 課題解決型高度医療人材養成プログラム
# 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

［取組２］看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
（１）地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成

| 整理番号 | １８ |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 申請担当大学名（連携大学名） | 山形県立保健医療大学 |
| 事業名 | 山形発・地元ナース養成プログラム |
| 事業責任者 | 学長　青柳　優 |

**事業の概要**

１.地元ナースとは、地方の小規模病院等で地元住民の多様な健康問題に対応できる看護職を指す。地元の強み・弱みを包括的に捉えつつ多職種と連携し住民力を生かした看護を実践し、成果を国内外に発信する活動を担う。大都市圏と比較し様々な制約がある地方で活躍する人材として、協調性と変革力の均衡が取れていることが重要である。
２.学士課程教育プログラム開発：新設科目として、地元論、‘相互理解’連携論、ジェネラリズム看護論を設定する。実習を含む既存科目も再編し、教育課程全体の体系化を図る。
３.リカレント教育：小規模病院等の看護師を対象とした実習指導力養成プログラムを実施する。
４.人事交流：相互理解と教育力向上のため教員と小規模病院等看護師と人事交流する。
５.継続的な評価・改善：大学と関係機関の共同に基づくＰＤＣＡサイクルを活用する。
６.ＩＣＴ活用：情報共有し、遠隔地での指導を効果的に行う。

**推進委員会からの主なコメント**　　○：優れた点等、●：充実を要する点等

○地域に軸足をおいて、学生が地元論から学び小規模施設で働く地元ナースを育成するプログラム開発は地域特性を生かした県立大学として評価できる。
○山形県との共同研究や実習指導者との合同検討会の実績があり、地元とともに育ち合う環境があり、効果が期待できる。
○養成すべき人材像に大学教員を加え、創造する気概が読み取れる。
○地元小規模病院の看護師の教育を担う計画により、地域における看護の知識・技術の標準化や刷新を図るシステムとなることが期待される。
○地方の小規模病院等で、多職種連携や住民力を生かしながら、地元住民の多様な健康問題に対応し、その成果を国内外に発信する力をもつ「地元ナース」の育成を目的としたプログラムであり、これからの日本の重要な課題への先駆的な取り組みとして高く評価できる。
○プログラムには、基礎教育での科目新設や実習を含む既存科目の再編、教員と小規模病院等との人事交流、小規模病院等の看護師へのリカレント教育が含まれ、大学と地域が連携して効果的に進められるものと期待できる。
●達成目標は伝わるが、評価指標による数値目標を入れることが望ましい。
●評価の視点と山形県全域への波及効果から、リカレント受講生の受入れ目標人数の見直し（5名は少ない）が望ましい。
●事業計画の展開により、地域医療に興味を持ち地元で就業する人が増えることは望ましいが、地元に就職する人を増やすことを目標として焦点化することは当事業の趣旨に一致するものではない。
●学習機会の乏しい小規模病院看護師の看護実践の教育プログラム開発を行うことが述べられているが、その実践や評価についての計画が表記されるとよい。
●最も事業予算が配分されるＩＣＴ関係についての取り組み内容の具体的な説明がみられず、本事業における必要性が不明確である。
●リカレント教育の内容はまだ具体的でないため、地元ナースのニーズやコンピテンシーを明らかにすることから取り組み、是非効果的なプログラムの作成を期待したい。